

大和市街づくり賞受賞事例

第 1 回（平成 5 年度）

【活動部門】

■大和駅東側再開発促進協議会

大和駅東側の再開発を鉄道工事と合わせて進めるために結成され、毎月熱心に会合を重ねたり、広報を配布したりと積極的な活動をおこなっている。平成 4 年 3 月には、大和駅東側地区におけるまちづくりの任意ルール「大和駅東側地区まちづくり協定」を締結し、その後発足したまちづくり管理委員会によって、協定遵守の PR 活動を行った。

■大和政経懇談会

大和歩行者専用道路沿道（国道 246 号線～東名高速道路南側、深見台 3 丁目周辺）の樹木への名札付けを行った。市内の遊歩道は、市民憩いのプロムナードとして親しまれるばかりでなく、小中学生、高校生の通学路でもあり、樹木へ銘付けは、詩情豊かに関心を高めつつ、市民と学生の植物関係学習に役立ち、ひいては郷土植物の生態系保全に資するものとなっている。

第2回（平成6年度）

【活動部門】

■女性によるまちづくり研究会

女性たちの熱心な研究活動（例えば、都市計画に関する「みどり」「歩道」「ゴミ」「放置自転車」「まちづくり条例」の提言等）は、専門家の眼からも関心させられる。市民感覚で捉えた様々な提言は、明快でわかりやすく市民のまちづくりの参考になるばかりか、行政への啓発的役割も果たしている。

■手柴 正

中央林間地域では、地域のまちづくりに関する市民活動組織として「中央林間まちづくり委員会」（平成元年設立）を組織し、地域のまちづくりに関する情報誌の発行、研究、アンケート調査、イベント等積極的な活動が展開されている。手柴氏は、会の設立当時から5年間に渡り、会長として委員会の運営に力を注がれ、他の地域にも模範的なまちづくり委員会として定着・発展するに至っている。地域を愛し、情熱をもって、まちづくり活動に取り組まれた姿は、まさに”まちづくり功労者”としてふさわしい。

【事例部門】



■「JACK & BETTY」（中央林間）

従来の駅前のパチンコ店という、決して品のよい施設として評価されるものではなかったが、当パチンコ店は、中央林間という市を代表する良好な住宅地の玄関口の品位を落とさず、むしろ街並みと調和した落ちつきのあるデザインとなっている。さらに、地域住民の要望を計画に反映するなど、まちづくりに敬遠されがちなパチンコ屋が、まちづくりに礼儀をもって接してくれた好例となっている。



■「ルグランつきみ野・つきみ野ガーデンア」（つきみ野）

周辺の閑静な住宅街に溶け込むような集合住宅であり、落ちつきのある色彩や隅々まで行き届いた細やかなデザインは、地域の景観イメージを良い方向に高めている。駐車場の低層化の工夫や中庭のデザインなど総じて評価すべき点は多く、地域の景観をリードしている。



■「フラワーロード」（渋谷）

交通量の多い国道467号線沿いの歩道を、神奈川県がフラワーロードとして整備し、うるおいある空間を提供している。周囲の比較的殺伐とした景観の中で、彩り鮮やかで管理の行き届いた草花が、レンガ色の舗装と調和して美しい道の景観を形成している。また、草花の管理が地元自治会（善光明自治会）の会員のみなさんで行われている。道路の整備やこまめな草花の維持管理が沿道施設の景観づくりへの契機となって、周辺全体が魅力的な景観と変容していくことに期待されるところとなっている。



■「大和市環境管理センター」（草柳）

都市内で立地が敬遠されがちな清掃工場であるが、そのイメージを見事に払拭した施設となっている。敷地西側の外構においては、木道や木橋など引地川との一体感に配慮し、敷地東側では、煙突を時計塔にしたり、まるでガラス面のようなブルーの外壁とし、公園との調和を図るなど、周辺景観に十分配慮された計画となっている。また、余熱を浴場施設やプールに利用し地域に開放するなど、新しいまちの拠点としての役割を果たしている。

第3回（平成7年度）

【活動部門】

■光丘自治会・なかよし公園（山王塚公園）を育てる会

市が整備を予定している地域の公園の計画づくりに積極的に参加し、地域にふさわしい公園をつくりあげた。当初は、市の呼びかけから始まったワークショップも、回を重ねるごとに自主的な参加となり、緑を多く残す提案を初め、子供たちに人気の高いバスケットゴールの設置やあえてゴミ箱を置かないなどの具体的な提案へとつながった。提案だけでなく、公園完成後の維持管理への参加も予定されるなど、今後の公共施設整備における計画段階から管理に至るまでの市民参加の先駆的な例となっている。

【事例部門】



■「ギャラリーモミヤマ」（大和南）

駅近くの密集した商店街にあって、緑豊かなやすらぎの小空間を提供している。高密度になりがちな駅前や商店街で、道路際をショーウィンドーで飾るのではなく、建物を大きく後方に引いて前面を緑で修景し、ホットする空間を生み出している。



■「神奈川県立大和西高等学校」（南林間）

正面玄関前の緑の残し方をはじめ、敷地全体にわたって緑を積極的に取り入れ、学校、PTA、生徒たちの協力のもとで管理が徹底して行われている。教育施設としては申し分ないほどの環境は、周囲にも緑の景観を提供している。建物を主張せず、校庭の周囲にも高木の間にも小路を通す古き良き大和の樹木を再生し、語り、散策したくなるような魅力的な緑空間も創出しており、周辺の林間都市のイメージと対応する景観となっている。



■「大和駅西側プロムナード」（中央）

広幅員の空間だけでも、いままでの大和の込み入った駅前のイメージを払拭するものであり、デザインも暖かみのある柔らかいイメージのもので、心優しい空間を創出している。買い物帰り等で、誰もが安心して憩える場として利用され始める等、大和の駅前にふさわしいシンボリックな空間となりつつある。視界をふさぐ排気塔の工夫や汚れが目立つ路面や水路の清掃といった課題もあるが、今後多くの市民に利用され愛されていくことが期待される。

第4回（平成8年度）

【活動部門】

■つきみ野6丁目7番地建築協定運営委員会

同協定地区内は、街区としてのまとまりが感じられ、緑豊かな住環境が守られている。同建築協定は、平成3年4月に締結されてから5年の有効期間が経過し、平成8年8月には更新が行われた。建築協定の更新について合意に至らないケースが数多いにも関わらず、協定を更新し、継続すること自体評価されて良いところであるが、当協定は、更新の際新たに「建物の外壁を北側の隣地境界線から1m以上とする。」という項目を付け加え内容の拡充を図っており、また、協定未合意の方にも情報を入れるなど努力をしてきた。

■中央林間北自治会環境部会

中央林間駅前のパチンコ店の建設がきっかけとなって環境部会が発足したが、新旧住民が混在した地域の中で、これまでに多くの実績を残し、現在も活動が継続されている。住民が主体となったきめ細かいガイドラインづくりなど、継続的な勉強会に基づくルールづくりが行われている。

■村上八郎（大和駅東側再開発等促進協議会 相談役）

経済、社会状況の変化などにより、今日の再開発事業の推進には困難を極めるケースが多く見受けられる。そのような中、会を設立した当初から会長として、地権者をまとめながら継続的な活動を続け、「大和の顔」づくりに尽力されてきた。

【事例部門】



■「常泉寺」(福田)

敷地内には四季折々に咲く草花を配置し、なおかつ手入れが行き届いており、質の高い緑地景観を創出している。また、花の寺として、地域に親しまれている様子がうかがえ、一寺院の領域を超えて、緑豊かな地域づくりに貢献している。



■「引地川公園ふれあい広場」(上草柳)

コンクリート護岸を撤去し、見事に自然の川を復元させた。自然を生かした公園、ふるさと感じさせる川、周辺の緑がうまく調和し、良好な景観を形成している。また、自然にやさしい環境づくりにも取り組み、自然の力を利用した整備手法は、今後の整備の参考事例ともなっている。



■「ラ・パレット」(中央林間)

建物を低層におさえ、駐車場のスペースを広くとり、外構をオープンにするなど、空間にゆとりを持たせている。石造り風の落ち着いた建物のデザインは、センスが良く、また、植栽も効果的に配置しており緑豊かな住宅地のイメージに合っている。



■「大和市グリーンアップセンター ・大和市コミュニティセンター草柳会館」(上草柳)

建物は、水平ラインを強調し、安定感を創出している。また、風格のあるデザインは、とても好感が持てる。周辺の緑との調和を図りながらも、ランドマークとしての主張も感じとれ、緑の中の公共施設にふさわしい事例となっている。



■「PROSS (プロス)」(大和東)

駅前でありながら、色彩や形態での主張をおさえ、派手さのないシンプルなデザインにまとめられている。また、プロムナードや駅前広場とのつながりや調和を意識し、全体としてのまとまりが感じられる。



■「大和市自然観察センター しらかしのいえ」(上草柳)

施設規模が大きいものの、木質系材料を効果的に使用し、周囲の自然環境との調和が図られている。また、多くの人に親しまれる施設とするために、建設プロセスでの市民参加を導入するなど、施設の成り立ちも含め評価できる。